

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 3 月 16 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3473900458		
法人名	医療法人社団ひがしの会		
事業所名	グループホーム瀬戸美		
所在地	広島県豊田郡大崎上島町東野2727-1		
	電話番号	0846-67-3306	
自己評価作成日	平成 29年2月16日	評価結果市町村受理日	平成 29 年 3 月 23 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい		
所在地	広島県福山市山手町1020番地3		
訪問調査日	平成 29年 3月 2日		

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

瀬戸内海に浮かぶ大きな島。竹原港からフェリーで約30分乗り、大崎上島に渡り島内の垂水港・白水港から車で約5分から10分。自然に囲まれたグループホームです。駐車場もありお越しの際はご利用いただけます。

家庭での生活が不安になられたとしても、島で暮らしたい方・認知症介護を必要とされている方に自分らしく生きがいを安心して過ごしていただける様にサポートいたします。

2階建ての全18床。うち各階に2人部屋対応ですので、ご夫婦がご入居頂けることも出来ます。

食事はお客様の食べたい食事を聞きながらメニューを作成しており、お客様と一緒に味付けや盛り付けを行いひとり・一人に合わせた食事の提供を行っています。

月に1度行事も行ってお客様・ご家族様と共に楽しんで頂けるようにします。

医療連携(内科)は月に1度、往診がありお客様の健康管理や緊急時の対応をしています。

ご入浴は、個室のお風呂でひとり・一人に合わせた声掛けでの対応をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

民家が建ち並んでいる一角にある。歴史資料館が前にあり、少し出ると港や広い海が見え、自然の美しさを感じながら、馴染みの場所で自分らしく、落ちいて過ごせる穏やかな環境である。ケア面に於いてもその人ができる事は発揮できる場面作りをされ、張りのある生活に繋げている。また、会話する時間を大切に、個々の思いを汲み取り、その想いに沿うよう取り組まれ利用者との信頼関係を築き、大家族の様な雰囲気でも過ごされている。行事も多く、家族と共に楽しめる企画をされ、ハイキングやお花見、運動会、仮装大会等、多種多様な催しを実施し、楽しみごとや気晴らし、五感刺激となる様努められている。食事も旬の食材で利用者の好みも取り入れながら、楽しみとなる支援をされている。栄養バランスにも配慮され、時折栄養士がチェックされる等、ケア、食、健康管理をしっかりとされ、安心、安全に一日が過ごせるよう全職員が取り組まれている。職員研修も定期的にあらゆる分野で実施し、スキルアップに繋がられている。運営推進会議も充実し、理解や協力も得られ、情報や助言、意見等は真摯に受け止め、今後の取り組みに活かすよう努められ、ホーム長はじめ、職員が優しく、穏やかな声で接しられ、家庭的な雰囲気の事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様が生き生きと出来る様にイベントや料理作りを行っている	法人理念、目標を基に事業所独自の目標や個人目標を掲げ目につき易い場所に掲示すると共に申し送りで周知され、また、個人目標は上期、下期で評価を行い、達成に向け取り組まれている。理念、目標に沿ったケアを日々心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	声掛けを行っているがなかなか来られない	地域行事(盆踊り大会、花火、お祭り等)に参加し顔見知りの関係に努め、地域の一員として交流できる様努めている。また、駅伝の応援にも行かれたり、ふれあいサロンへも参加し地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行えていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、勉強会、現在の利用者様の報告を行っている。また、意見が出来ない時には全体会議で報告を行い、サービスに繋げている。	2ヶ月に1回開催し、家族、駐在さん、行政、包括支援センター等の参加の下、利用状況や行事、研修等多岐にわたり報告し、立場の違う方々の意見をサービスに活かしている。防災訓練をイベントでしたらどうか等の意見を頂いたり、情報等、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。	運営推進会議への参加があり、現状は理解してもらっている。書類提出時や困難事例、不明な点等がある場合は出向いたり、時には電話で相談し、アドバイスしてもらい、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間帯のみ玄関のカギをかけている。	身体拘束はしない方針でケアされている。自宅願望の方には家族と相談し一度自宅に帰ってもらう、また、不穏になられた場合は気持ちを変える工夫や見守りに対応され、制止しない支援に心掛けている。研修も行い全職員理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対して、勉強会を行い、虐待が無いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在では成年後見制度を利用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族様に説明を行い、近いが出来ているかを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	瀬戸美運営推進会議で報告を行っている。	訪問時や運営推進会議、家族会の中で意見、要望を聴取すると共に電話で家族に聞く事もあり、それらの意見等は、社内連絡ノートに記録され、全職員に周知し運営にも反映させている。また、要望等は個々に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で話を聞く機会を設けている。	日々気付きがあればリーダーに伝えると共に個人目標を設定する時にも提案や意見を聞くように努めている。その中での意見や提案は月1回の全体会議で検討し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいが出来る様にアドバイスや研修に参加をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひがしの会の勉強会や、大崎上島エリア内の勉強会の参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸美全体会議や法人内の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問を行ったりご利用様が不安に思っている事等を聞きだしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に訪問を行い利用に至るまでに家族様等が求めている事をよく聴く機会をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネとよく話をし、その方にあったサービスを利用して頂くようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限りご利用様の持っている力を発揮できるようにしお互いが協力して生活が出来る様支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かある事ごとに家族様に電話や手紙、面会時に話しをし情報の共有が出来る様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの折に利用者様の馴染の場所を通ったり面会に来やすい様支援に努めている	家族全員が来られ、みんなで食事される家族もいる。友人や親戚の方も気軽に来られる。自宅近くまでドライブしたり、馴染みの商店に買い物行く事もある。また、家族の協力でお墓参りや自宅へ日帰りや外泊される方もおられ、関係が途切れない様柔軟な支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや会話の時間をもち趣味を把握し職員同士が話し合いを行い席替えを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居をされてからもご家族様にお会い時には居今の状況を聞いて相談や支援の声掛けを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中でご本人の思いや暮らし方の希望について訊くようにしている。思いや希望に添った生活が出来るよう努めている。聞き取りが困難な場合はご家族さまから聞いている	日々の会話や個別対応時(入浴、居室)に聞く事が多く、食べ物の希望(ラーメン、お好み焼き、)などの希望が出たり、ドライブに行きたいとの要望も出る。出された意向は可能な限る対応している。また、表出困難な方には行動、表情から把握すると共に家族からも聞き取り検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中でお聞きするようになっている。入居時には予め前担当ケアマネ、ご家族より情報を頂きこれまでの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に予め前担当ケアマネ、ご家族より情報を頂きその情報を踏まえた上でご利用者の瀬戸美での暮らしの現状を総合的に把握する様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おおよそ3か月に1度、ご本人とご家族に参加して頂きサービス担当者会議を開催している参加出来ないご家族には予め電話などで話しをし意見やアイデアを頂いている。医療面に関しては受診、往診時Drの指示や意見をお聞きしている	基本情報や家族、本人の意向を基に暫定プランを作成し、2~3週間状況を見ながら、職員間で話し合い、担当者会議を実施し、関係者の意見を反映させ、現状に即した計画を作成している。モニタリングや見直しも定期的にされている。家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等に関しては個人記録に記入して情報の共有を行っている。ケアプランの実践に関してはケアプランチェック表に毎日記入し月末に評価の記入を行う。ケアマネが評価の確認をすることで介護計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りその要望に応じた対応を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、教育機関等と協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るかぎりご利用者様のかかりつけ医の所へ受診し頂いたり往診して頂いている	協力医療機関の往診が月1回、訪問看護師が週1回来られ、健康管理をされている。かかりつけ医の場合は家族対応となっている。また、訪問歯科支援もある。結果については記録され、的確に伝えら、共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の体に変化が見られたらその都度看護師へ相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と相談をし早期退院が出来る様であればその後の治療方針対応の仕方など情報交換や相談に努めている。そうした場合に備えて連携している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様や利用者様と話し合いの時間をもち、主治医、訪看と共に方針の検討を行い、チーム支援に取り組んでいる。	利用開始時、指針を基に説明され同意を得ている。状況変化が起きた場合は本人、家族の意向の確認をされ、主治医や訪問看護師との連携を図る取り組みをされ方針を共有し、家族の意向に添った支援に努めるが、医療行為が発生した場合は医療機関となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人を含め、全職員への訓練講習を定期的に実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回行っている。又、勉強会を開催している。	消防署指導の下、年2回、日中、夜間を想定し、実施され、訓練後は消防署から総評を得、次回に活かしている。法人全体の水害訓練にも参加し、的確に対応出来る様努めている。備蓄もされている。点検も定期的に行っている。	訓練は法人全体や事業所独自で実施されているが、地域の協力は不可欠であり、近隣へ訓練実施日を伝え協力のお願いをすると共に運営推進会議で議題とし情報や協力体制の強化に繋げる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのご利用者様に対しての言葉がけについて配慮を行っている。また、個人情報については必ず文章にて同意を得て使用している。	研修もされ、ミーティングでもプライバシーを損ねない対応をするよう周知している。特に排せつ時や入浴、また日々のケアでも個々に添った声かけや尊厳を大切にされた支援に心掛ける様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、ご利用者様の自己決定を促すような言葉がけを行う様努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、ご利用者様一人ひとりのペースを大切に希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望の服を着て頂いたり、理・美容は出来る限り本人様希望のお店に行くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には利用者様から要望を聞き、メニューを立てたり、味のバランス・量などを考えながら支援を行っている。また調子や様子を見ながら食事の準備・片づけなど職員と一緒にやっている。	力量により、下ごしらえ等してもらい、持てる力の発揮する場面作りをされている。職員も同じ物を同じテーブルで、声かけや会話をされ楽しみの時間となっている。栄養バランスにも配慮され、食べ易く、体調に合わせた形態となっている。時折栄養士のチェックが入る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者様が食べやすく、おいしく食べられるよう工夫(食事形態・分量等)している。また、食事量・水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛けを行い、自分で出来ない方は介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為に排泄チェック表を利用して把握に努めている。また、食事や移動前に声掛けを行いトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表や表情等から把握し、トイレ誘導をし、気持ち良く排泄できる事と、座位や立位等で機能維持のためにもトイレでの排泄に取り組まれている。自立されている方もいる。また、排便チェックもされ不穏にならない様食べ物の工夫もされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品・水分などを取って頂く。体操などで体を動かしてもらう等取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせ、心地良く入浴して頂けるよう声かけを行っている。	回数や時間帯は決められているが希望があれば、回数も時間帯も希望に沿った柔軟な支援をされている。拒否の場合は声かけや職員を変える等工夫し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態に合わせて休める様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを元に薬の数を把握している。また、薬説明書により薬の内容も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りご利用者様の持っている力を発揮できる場を作る様に配慮し、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、出来る限り外出等できる様、家族様と相談・協力を行っている。	ドライブやハイキング、お花見等に出かけたり、地域行事のマラソン大会の応援に行かれたり、近隣にある同法人の施設のお祭りも参加し楽しまれている。また、家族と外食や自宅に帰られる方もいる。天気が良ければ希望で散歩に出かけている。出来るだけ外気に触れる機会と共に気分転換と五感刺激となる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の状態に合わせて、可能であればご家族様の協力の元でお金を少し持っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば自ら電話や手紙のやり取りが出来る様支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は出来る限り清潔にしている。また、脱衣所には温・湿度計を置き快適に過ごせるようにし、カーテンを閉めるなどを行いプライバシーに配慮している。	季節を感じる装飾品もあり、壁には外出時や仮装大会時の変装された利用者さんの写真がある。また、利用者自ら書かれた書道も飾られている。畳スペースやソファもあり、思い、思いの場所で過ごす事ができ、室温にも配慮され、不快な匂いもなく、落ち着いて過ごせる。食事準備の匂いが五感刺激となり、生活感のある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し自由に利用者様が利用されている。また、リビングの横には和室もありお客様同士でお話しされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた布団やテレビを持って来て頂いたり、出来る限りご利用者様が自分の部屋だと感じて頂ける様にしている。	寝具、家具(イス、机)テレビ、ぬり絵、家族との写真等があり、その人らしく工夫され、自宅での生活に近い環境づくりをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、お風呂場には手すりを設置している。また、利用者様には歩きやすい履物を使用して頂き、歩行状態に合った杖・歩行器等を使用できる環境を整えている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが			○	②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている	○	①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名:グループホーム瀬戸美

作成日:平成 29 年 3 月 23 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との付き合い 現状 行えてない。 課題 地域の方に瀬戸美運営推進会議や防災訓練の 声掛け。	・瀬戸美運営推進会議に来て頂く。 ・防災訓練や瀬戸美内のイベントに来て頂く。	・4月に入り区長・民生委員への声掛けを行う。 5月から運営推進会議に参加して頂く。 ・秋の防災訓練に来て頂くように案内状の作成 を行い来て頂く。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。